

# 人文社会学部

## 1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

人文社会学部は、人文科学と社会科学の諸領域の専門知識・技能等を修得するとともに、人間的基礎として自他の相互理解による調和・協調の精神をもち、グローバル化する社会において主体的かつ他者との協働により活躍できる人材の育成を目的としています。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

### 1) 人間・社会・文化に対する専門的な知識・技能

人文科学・社会科学が対象とする人間・社会・文化の諸事象について、幅広い関心をもち、専門的な知識・技術を身に付け、自ら思考し判断することができる。

### 2) 異なる価値をもつ他者を受容して調和を図れる豊かな人間性

コミュニケーションを通じて、自己を他者に伝えるとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解して様々な価値観を受け入れ、他者との調和を図ることができる。

### 3) 社会(組織)に活かせる課題解決能力

社会(組織)の様々な課題について、自らの主体的な取り組みや他者との協働によって解決し、自己の能力を社会に活かすことができる。

## 2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

人文社会学部では、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)として示した能力を修得するために、学部共通科目、各学科の学科共通領域、学科専門コース・領域によってカリキュラムを編成しています。

### (1) 教育課程の編成、教育内容

- 1) 学部共通科目 社会や様々な業界・職種に対する理解を段階的に深め、社会での活躍につながるよう、1年次の共通教育科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を受けて、2年次・3年次に各学科の特性に見合った内容でキャリア科目を設けています。
- 2) 学科共通領域 各学科の学修の基礎や中核となる科目を配置しています。1・2年次には基礎的な知識・技能やコミュニケーション能力を身につけるための少人数による主体的・実践的な科目を設置し、また3・4年次にはより専門的な知識・技能を深め主体的に思考し課題を解決する能力を養う演習科目を設けています。
- 3) 学科専門コース・領域 学生の興味関心や卒業後の進路に応じた能力・資質を形成するため、効果的かつ自由度の高い幅広い学びができるように、各学科の特色ある専門的な科目を体系的に編成した専門コース・領域を設けています。

### (2) 教育方法

- 1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ICTの活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

### (3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ルーブリックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

### 3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

人文社会学部は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

1) 人文科学と社会科学の諸領域の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) 人間・社会(世界)・文化に対する様々な事柄に関心をもち、専門的な知識・技能を身につけ、課題を発見し解決する意欲を有すること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力〕

3) 他者や社会との関係において、自ら主体的に思考し実践するとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解し、他者と協働してものごとに取り組む姿勢をもつこと。

〔求める要素：主体性、多様性、協働性〕